


「複数・少人数指導体制」の制度について

- ◎すべての小学校に2人ずつのスマート教員を配置します。
→1、2年生、3、4年生にそれぞれ小学校教員免許を持つ教員を一人ずつ配置し、子どもたちの実態に合わせた様々な授業形態を可能にします。
- ◎学校の規模や状況などに応じて、さらに4校に各1名のスマート教員を配置します。
- ◎合計で20人のスマート教員を採用します。
→これまでの「ハタザクラ教員」の平均採用数は14人でした。新しい制度に変わり、採用数、予算ともに充実した指導体制を整えます。
- ◎担任についてはすべて埼玉県の本採用等の教員が受けもちます。
スマート教員は担任を受けもちません。
→クラスの実情に応じ、授業の進め方や児童の様子などについて、担任と連携をとりながら進めていきます。

このような制度になります




なぜ、「複数・少人数指導体制」にするのですか？

現状として、「ハタザクラ教員」の採用確保が困難になってきたこと、指導力に関する問題が看過できなくなってきたことなどから、「少人数学級編制制度」の持続が困難となっています。

また、これからは、受け身になりがちな一斉授業から、より主体的に子どもの学ぶ姿勢を育てるような授業改善が求められます。

これらの理由により、担任一人による従来型の一斉授業ではなく、学習内容によりグループ分けをしたり、複数の教員が同時に教室で指導したりすることが可能になる「複数・少人数指導体制」への改革を進めます。




クラスの人数はどうなるのですか？

小学校1クラスの上限の人数は、国や県の基準で

●1年生～2年生 35人上限

●3年生～6年生 40人上限 と定められています。

例えば1年生で、学年の人数が70人の場合は、35人ずつの2クラスになりますが、71人の場合は、23人・24人・24人の3クラスになり、クラス数、人数ともに今までの制度と変わりません。



先生の数が多いと、子どもが落ち着かないのでは？

小学校入学間もない1年生は、一斉授業にとまどいを感じる子どももいます。いわゆる「小1プロブレム」です。

先生が黒板の前で授業を進めているときでも、質問できる先生がもう一人教室にいることは、子どもたちの安心感を高めます。

このような授業になります

新しく可能となる授業パターンや制度のポイントを説明します。



1

教員が二人いることで、担任が授業を行いながら、とまどっている児童に対して、スマート教員が個別指導をすることもできます。

担任とスマート教員は、連携をとりながら、授業を進めることができます。



2

国語や算数などのつまずきやすい教科や単元において、複数の教員によるきめ細かな授業を行うこともできます。

また、2クラスの学年を3つのコースに分けて、児童自身に合ったコースで授業を受けることもできます。



3

体育の授業では、コートに分けてボールゲームの試合を行うときも、教員が二人いればどちらのコートにも目が行き届きます。

安全を確保し、子どもたちへの指導や評価も効果的に行うことができます。



4

今回の制度では、経験豊富な教員や民間の力も活用しながら、スマート教員を各小学校に配置する予定です。

例えば、チーム・ティーチング(1つの授業を2人の教員で担当する)で児童のつまずきを解決するための効果的な指導を行うことができます。



5

児童一人ひとりと向き合う時間を生み出します。

担任とスマート教員が教材研究や資料作成などで協力することにより、授業準備などにあてていた時間を、児童とふれ合うことのできる時間にすることができます。